

人類学における対話

講師: 羅紅光(Luo Hongguang)

中国社会科学院社会学研究所教授／主任研究員

講演要旨

人類学とは、他者との間の理解の架け橋であるといわれている。だが、「君は魚ではないのに、なぜその魚のうれしいことがわかるのだろうか」(莊子)という問題がある。理解はいかにして可能になるのだろうか。自然科学と異なって、人類学も含めて社会科学は、人間および「人為的な事実」を研究対象とするものなので、対話が理解への唯一の道であろう。すなわち、人と人、人と自然、人と観念(信仰、思想、概念など)の間にある意味のシステムに関する表現、理解だと考えられる。このポイントから、われわれは、人類学の研究対象を、自然科学のような「植物人間」扱いの影響から逃れることが可能になるのであろう。

プロフィール

羅紅光(Luo Hongguang)。1957年北京生まれ。大阪大学人間科学研究科にて青木保教授の指導の下、文化人類学を学ぶ。1994年、博士号を取得し、帰国。現在まで中国社会科学院社会学研究所の研究スタッフとして勤務。研究テーマは、アジアのNGO、中国の福祉文化、映像人類学など。主な業績に、“We are the one of others”(映像、2013年)、『人類学』(北京:社会科学出版社、2014年)、『黒龍譚—ある中国農村の財と富』(行路社、2000年)など。

日時: 2017年1月30日(月)15時00分～16時30分

場所: 大阪大学大学院人間科学研究科
東館第304講義室(吹田キャンパス)

* 入場無料／予約不要

